

今週の話題：

<リンパ系フィラリア症 (LF) 掃滅世界計画>

\* 2009 年の集団薬剤投与 (MDA) に関する進展報告：

2020 年までに LF を公衆衛生問題から取り除くことを目標として 2000 年から着手された LF 掃滅世界計画は世界的公衆衛生計画へと急速に広まりつつある。今回の報告は 2009 年までの集団薬剤投与 (MDA) 進展状況を要約したものである。計画が行われた 9 年間で、LF の流行国であった 81 カ国のうち 68 カ国の流行地域が特定され、11 カ国が現在特定されつつあり、残りの 2 カ国がまだ着手されていない状況にある。流行国のうち 10 カ国は MDA の必要がなく、53 カ国に MDA が実施された。残りの 18 カ国は主に WHO アフリカ地域であり、MDA が実施されていない。アフリカ地域以外の流行国 37 カ国は MDA の実施を必要としており、うち 34 カ国で MDA が実施されているが、ニューカレドニア、パラオ、スーダンの 3 カ国ではまだ実施されていない。

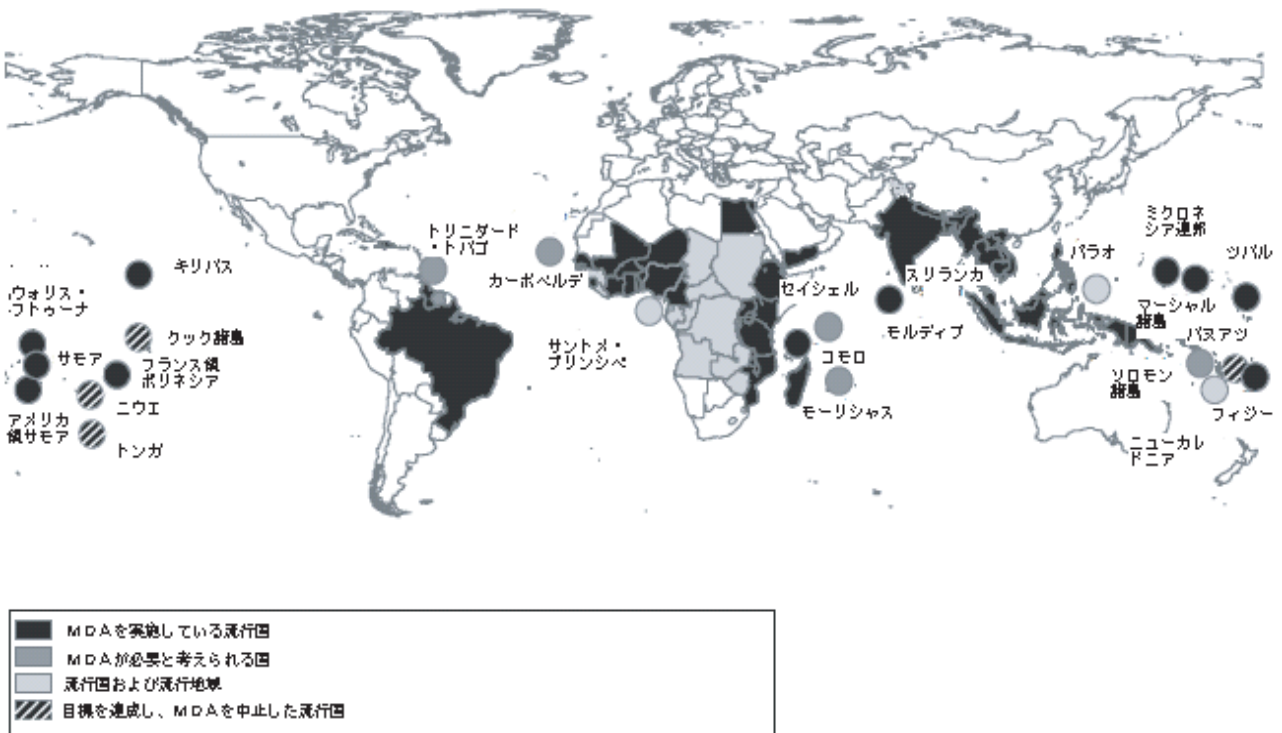
2009 年現在、4 億 9600 万人を対象として MDA が実施され、3 億 8500 万人を処置した。処置人数で 2009 年は 2008 年より約 1 億人少なかったが、東地中海や東南アジア地域を除く全ての WHO 分類地域で 2009 年には 2008 年より多くの人々を処置した。2009 年現在、東地中海地域の中でエジプトでのみが MDA を実施しておらず、東南アジア地域では 2008 年より処置人数が 1 億 2500 万人減少した。流行国のうちブラジルを除いた国々では、2009 年にジエチルカルバマジン (DEC) 強化塩とアルベンダゾールもしくはイベルメクチンとアルベンダゾールの併用療法を受けた。

流行地域で MDA を 5~6 度実施することで、ミクロフィラリア血症の有病率を減らすということがデータより明らかとなっている。MDA の効果により、ミクロフィラリア症の有病率は有意に低下し、この結果、3200 万人の DALY (障害により健康が損なわれるのを調整した生存年数) を低下させ、660 万人の新生児疾患への予防になると考えられている。現在、障害管理計画は 27 カ国で実施されている。

2009 年現在、LF が流行している国々とその国々における MDA 実施状況を地図 1 に示した。

表 1：WHO 地域または地域計画調査グループ別の集団薬剤投与 (MDA)、2009 年、表 2：WHO 地域または地域計画調査グループ別のリンパ系フィラリア症 (LF) に対して実施された集団薬剤投与 (MDA)、WHO 地域または地域計画調査グループ別の集団薬剤投与による治療を受けた未就学児および就学児の推定人数 (すべて WER 参照)

地図 1：リンパ系フィラリア症の流行国と流行国における集団薬剤投与 (MDA) の状況、2009 年



\* アフリカ地域 :

LF はアフリカ地域 46 カ国中 39 カ国で常在地域を有している。うち 27 カ国の常在地域が特定され、10 カ国の常在地域が現在特定されつつあり、チャドとエリトリアの 2 カ国がまだ着手していない状況にある。

ブルンジ、カーボベルデ、ルワンダは MDA 実施対象国ではなく、モーリシャスと・セーシェルは現在 MDA が必要かどうか見定めているところである。残りの 34 カ国のうち、19 カ国は現在 MDA が実施されている。コートジボワール、エチオピア、モザンビークは 2009 年より着手している。ブルキナファソ、コモロ、ガーナ、マラウイ、マリ、トーゴでは 2009 年までに LF 常在地域の全人口への MDA が実施された。ブルキナファソとトーゴでは常在地域で 5 回以上の MDA が実施されたが、コモロ、ケニア、ウガンダでは 2009 年にまだ行われていない。マラウイ・マリ・ニジェールでは MDA 実施計画を拡大中である。

2009 年現在、アフリカ地域では 8500 万人の MDA 対象者のうち、6600 万人を処置した (76.8%)。2009 年では 2008 年より 1500 万人多く処置したことになる。未就学児および就学児の 1860 万人に MDA を処置したと推定している。

\* アメリカ地域 :

アメリカ地域では、LF の常在国 7 カ国のうちコスタリカ、スリナム、トリニダード・トバゴの 3 カ国で MDA の必要がなく、ブラジル、ドミニカ、ガイアナ、ハイチの 4 カ国で実施する必要がある。2009 年現在ドミニカではまだ MDA が実施されておらず、エモリー大学 (米国) の LF サポートセンターと国際公衆衛生特別委員会で MDA 実施が必要かどうかを見定めているところである。ガイアナでは DEC とアルベンダゾールの併用療法を実行している。

2009 年現在、アメリカ地域では 370 万人の MDA 対象者のうち、340 万人を処置したことになる (91.9%)。

\* 東地中海地域 :

東地中海地域では、LF の流行国としてエジプト、スーダン、イエメンの 3 カ国があげられる。2009 年現在、イエメンでは 8 回目の MDA が実施されている。エジプトとイエメンで実施された MDA によりマイクロフィラリア有病率は 1%未滿となり、小児のマイクロフィラリア血症を評価することで MDA の再実施が必要かどうかを見極めている状況である。スーダンでは現在流行地域を特定中である。

\* 東南アジア地域 :

東南アジア地域には LF 感染リスクを有する全人口のおよそ 66%が存在しており、9 カ国が常在国である。モルディブ、スリランカ、タイの 3 カ国ではマイクロフィラリアの有病率が 1%未滿に減少した。その結果、まもなく掃滅の認可が下ることとなる。残りの 6 カ国では 2009 年に MDA が実施された。インドの流行地域では DEC とアルベンダゾールの併用療法が実施された。

2007 年にインドでは DEC 単独療法から DEC とアルベンダゾールの併用療法へと転換し、この時期より徐々に併用療法を受療する患者が増加した。併用療法を受療した人数は 2008 年から 2009 年までの 1 年間で、1 億 1000 万人から 2 億 4000 万人まで増加した。しかし、2009 年に LF 流行地域のうち 3 地域 (ウッタル・プラデーシュ州、ジャルカンド州、アッサム州) において MDA の供給が停止したため、年間 MDA 実施総数が 2008 年と比較して 1 億 3500 万人減少した。加えてビハール州で受療するはずの 9000 万人の実施結果を受け取っていない。インドでは MDA を実施した 192 の地域におけるマイクロフィラリア症の有病率が 1%未滿に減少した。アンドラプラデーシュ州のナルゴンダでは MDA の実施により 2004 年から 2009 年で罹患率 17%から 0.8%まで減少した。

2009 年 12 月にインドネシアの LF 流行地域が特定されたことで、東南アジア地域の全ての国で流行地域が特定された。

2009 年現在、東南アジア地域では 3 億 8100 万人の MDA 対象者のうち、3 億人を処置したことになる (78.6%)。

\* 西太平洋地域 :

・メコン川流域 :

メコン川流域地域は LF 常在国であるブルネイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、フィリピン、ベトナムを含んでいるが、このうちブルネイのみ MDA 実施の必要性はないとされている。

2009 年までにカンボジア、マレーシア、ベトナムの LF 流行地域で MDA を 5 回実施した。ラオスとフィリピンは全ての流行地域で 2014 年までに 5 回の MDA 実施を計画している。

2009 年現在、メコン川流域では 2500 万人の MDA 対象者のうち、1630 万人を処置したことになる (64.9%)。

・LF 掃滅に関するパシフィックプログラム (PacELF) :

PacELF により、LF 常在国 16 カ国中 4 カ国 (クック諸島、ニウエ、トンガ、バヌアツ) で有病率が 1%未滿に達した。上記の 4 カ国は 2007 年より調査されてきた。流行国 5 カ国 (アメリカ領東サモア、フィジー、フランス領ポリネシア、サモア、パプアニューギニア) は MDA を全国的に実施している。

ミクロネシア連邦、マーシャル諸島、パラオ、ニューカレドニア、ワリス・フトゥナ諸島では LF 有

病率の調査中である。

2009年現在、MDA実施結果はフィジーからのみ提出されており、49.1万人のMDA対象者のうち、46.5万人が処置された（94.7%）。

PacELFの内、最もLF掃滅が困難な国はパプアニューギニアである。これは他の地域よりもMDAが必要であったり、地理的な問題によりMDAの供給が困難であったりすることによる。

\*課題：

リンパ系フィラリア症（LF）掃滅世界計画は折り返し地点に至った。WHOは2000年から2009年までのMDA実施結果をまとめ、2010年末までにLF流行国の政府と保健の専門職に情報を提供し、LF掃滅に向けての援助の上乗せを2010年からの目標としている。

LFの監視や評価をする研究グループからMDA実施終了やMDA処置後の調査に関する新しい指針が発行される予定であり、LF掃滅世界計画では世界規模のガイドラインの作成なども行われている。

LF掃滅計画の拡大とMDA受療者の増減は以下の3点に影響される。

- (i) MDAを中止した国や地域
- (ii) MDAを必要とする国におけるMDAの導入や拡大
- (iii) ロア糸状虫の流行国によるMDAの実施

MDAの5~6度の実施によりマイクロフィラリアの有病率が1%未満となったLFの流行地域であった場所は、MDA実施終了やMDA処置後調査を実行するという次の段階へと進む。この段階へと進んだ地域ではMDA受療対象者が徐々に減っていくことと考えられる。

（江藤博昭、木戸良明、中園直樹）